

シラバス参照

授業科目名	肢体不自由児教育総論
単位数	1
授業形態	講義
講義コード	5737
授業担当者氏名	<a href="#">阿部崇(アベ タカシ)</a>

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	(1) 肢体不自由児教育に関する基礎的事項について列挙することができる。 (2) 肢体不自由児教育の教育課程及び教育の実際について説明することができる。 (3) 肢体不自由児教育の今日的課題について、資料に基づき議論することができる。	
授業概要	肢体不自由の定義・原因・発達特性や歴史的展開と今後の動向などの基本的事項から、肢体不自由児教育の教育課程の特徴や特別支援学校の教科学習と自立活動を中心とする教育の実際を概観し、肢体不自由児教育の基礎的知識を習得する。さらに、障害の重度・重複化にもなる重複障害児の発達と教育的支援教育的基盤の形成について学ぶ。また、肢体不自由児教育の専門性について、さらには肢体不自由者の社会生活について理解を深めた後に、ライフステージから見た肢体不自由児教育の実態等の今日的課題を提示し、資料に基づいたディスカッションを行う。	
教育課程内の位置づけ	子ども支援学科 専門教育科目 支援科目 3年 選択	
授業におけるアクティブな特徴	特徴	該当
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型(PBL)連携なし	-
	C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	-
	D: グループワーク	-
	E: プレゼンテーション	-
	F: 実習、フィールドワーク	-
	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	-
	H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	-
	I: 反転授業	-
J: 外国語のみで行われる授業	-	
授業計画	第1回	肢体不自由の定義・原因・分類・発達特性
	第2回	肢体不自由児教育の歴史と発展
	第3回	肢体不自由児教育における教育課程
	第4回	肢体不自由児教育における自立活動
	第5回	重度・重複障害児の発達特性と教育的基盤の形成
	第6回	肢体不自由児教育の専門性と研修
	第7回	肢体不自由者の権利と社会生活
授業外学修予習(事前学修)	各授業	配付資料を読んで疑問のあることについて質問を考えること
	[平均30分]	
授業外学修復習(事後学修)	各授業	講義ごとに要点をA4版1枚程度に文章で整理すること

	[平均60分]
評価方法	期末レポート40%、随時のミニレポート40%、授業態度20%で、総合的に評価する。
教科書等	安藤隆男編著「よくわかる肢体不自由教育」ミネルヴァ書房
課題に対するフィードバックの方法	最終講義において全体に向けてフィードバックを行う。
その他	特になし
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり
授業担当者の実務経験の内容	①特別支援学校に勤務 ②特別支援学校に勤務した経験を活かして、事例や実務上の経験なども織り交ぜながらより実践的な講義を行う。
ファイル	